



日本音楽教育学会ニュースレター 第91号

目次

1 学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第54回大会の予告……………今田 匡彦 2
2. 編集委員会からのお知らせ……………今田 匡彦 3
3. 第11回ワークショップ「義太夫節（人形浄瑠璃文楽の音楽）に親しむ」のご案内
……………石井ゆきこ・石上 則子 3
4. 【重要】第26期 会長・理事選挙の実施方法と日程……………山本 幸正 4
5. 理事の被選挙権者辞退の申し出に関するお願い……………齊藤 忠彦 4

2 音楽教育の窓

1. 〈連載〉音楽・教育・学校 (30)
多文化の伝統音楽への向き合い方を考える……………加藤富美子 5

3 会員の声

1. 第53回東京大会での発表を通して
—コロナ禍における小学校での実践事例の研究—……………稲生 涼子 6
2. スペイン・グラナダ留学の思い出……………桐原 礼 7

4 会員の新刊・近刊等紹介…………… 8

5 報告

1. 2022年度 日本音楽教育学会 第4回常任理事会…………… 9

6 事務局より…………… 15

〔編集後記〕

1 学会からのお知らせ

1. 日本音楽教育学会第54回大会の予告

大会実行委員長 今田 匡彦

日 時：2023 年 10 月 14 日（土）、15 日（日）

場 所：弘前大学教育学部及び創立 50 周年記念会館みちのくホール
〒036-8560 青森県弘前市文京町 1

超人口減少地域で、おまけに短命県としても知られる青森県で、2013 年以来 2 回目の大会が開催される運びとなりました。大会実行委員長など一生に一度かと思っていたので、〈過去の因果関係〉などといった無駄な意味は見出さないように、日々心静かに過ごすよう努めております。

第 54 回大会は、また第 50 回大会以来久々の対面での開催を予定しています。自宅でコーヒーを楽しみながら、ドレスコードなど全く気にすることなく参加するオンライン会議に馴染んだ身体に鞭を打ち、どうぞ遠方よりご足労下さいませ。

超人口減少地域、短命県などのキーワードに因んで、大会実行委員会のテーマは「音楽教育とウェルビーイング世代に芸術が果たす役割について」（仮題）です。中心と周辺をめぐる議論など既に使い古されている気がしないでもありませんが、音楽教育という切り口から見えてくる新しい視座もあることでしょう。では、秋の弘前でお目にかかりましょう。

発表申し込み締め切りは5月 31 日です。

- ◆大会において口頭発表、ポスター発表、共同企画を希望する正会員・特別会員は、筆頭（代表者）・連名にかかわらず5月末日以前に当該年度までの会費を納入し、所定の期日までに発表申込を完了しておく必要があります。
- ◆同一大会において口頭発表、ポスター発表の筆頭発表者（代表者）となれるのはいずれか1件のみです。共同企画で筆頭発表者となれるのも1件のみです。なお、筆頭（代表者）・連名にかかわらず、1人が発表できる件数は口頭発表とポスター発表、および共同企画をあわせて2件を上限とします。
- ◆口頭発表、ポスター発表の場合、1名を上限として非会員が連名発表者になることができます。ただし、非会員の連名発表者は当日臨時会員となって発表会場に同席いただくことが望ましいです。
- ◆共同企画における発表者は、代表者を含む2名以上が正会員・特別会員・名誉会員であることとします。このほかに、複数の非会員が連名発表者となることがあります。

2. 編集委員会からのお知らせ

編集委員長 今田 匡彦

日本音楽教育学会では『音楽教育学』を8月31日と3月31日に、『音楽教育実践ジャーナル』を12月31日に発行しています。年間3冊の学会誌刊行は、国内外の他学会と比べても大変稀有、なのは良いのですが、同時に、編集委員は恒常的に忙しく、重責を担っていることになります。という訳で、今回は編集委員会の仕事について少しお話ししたいと思います。

『音楽教育学』は投稿規定V-1に示されている通り、外部査読者2名と編集委員2名による計4名の査読意見を基盤に、編集委員会で「研究論文」「研究報告」「論考」等の採否を決定します。外部査読者は学会員のみならず、専門性に応じて非会員に依頼することもあります。ご存じのように、編集委員による査読については、第50回大会総会の審議事項(5)として審議・承認され、令和元年10月19日以降行われてきました。査読の過程は完全ブラインドですので、外部査読者のみならず編集委員が投稿者の名前を知ることはありません。投稿者自身に外部査読を依頼する等の危険を回避するため、委員長は投稿者名を把握しています。そのため、委員長は査読には加わらず委員会の交通整理に専念します。編集委員は担当する原稿の採用が正式に決定された後、投稿者との直接のやり取りが必要になります。この段階で初めて編集委員は担当する原稿の投稿者と対面する、という仕組みです。

各原稿の締め切りに応じて、編集委員会は原則として年4回開催されます。委員会開催までの3か月間、各委員は担当する原稿のことを常に気に留めていなければいけません。など書いていると、次回委員を引き受ける方がいなくなってしまうますが、やりがいのあるお仕事でございます。

3. 第11回ワークショップ「義太夫節（人形浄瑠璃文楽の音楽）に親しむ」のご案内

企画担当理事 石井 ゆきこ・石上 則子

第11回ワークショップについて、内容や会場が下記のように決定しましたのでご案内いたします。対面実施のため、感染予防により参加人数を限らざるを得ませんが、参加を希望される方には早めの申込（7月20日より）をお願いいたします。

日 時： 2023年12月2日（土）10:00～16:00

会 場： 杉並区立阿佐ヶ谷中学校 アリーナ

〒166-0004 東京都杉並区阿佐谷南1-17-3

*地下鉄丸ノ内線 南阿佐ヶ谷駅より徒歩2分

*JR 中央線 阿佐ヶ谷駅より徒歩7分

内 容： <午前>文楽についての講義と演奏

<午後>義太夫節体験ワークショップ・アフタートーク

講 師： 鶴澤友之助氏（三味線） 豊竹芳穂太夫氏（大夫）

募 集： 50名

会 費： 会員=1,000円 非会員=1,500円

申込開始： 7月20日（木）学会ホームページ 申込フォームより

4. 【重要】第 26 期 会長・理事選挙の実施方法と日程

選挙管理委員長 山本 幸正

2023 年度に実施されます第 26 期会長・理事選挙は、原則として電子投票システムにより行われます。予定では7月上旬に《選挙はがき》がお手元に届きます。全会員に個別に割り当てられたパスワードにより投票を行いますので、投票時に郵送されるパスワードが記載されたはがきの管理は個々の責任で行ってください。また紛失しないよう注意してください。その方法は次のとおりです。

- (1) 選挙に関わる名簿は、本学会ウェブサイトの会員専用ページ（マイページ）に登録された情報をもとに作成します。会員情報の確認・変更は会員本人にお願いしています。各自の責任において、**2023 年 5 月 31 日（水）**までに、登録情報の確認を必ず行ってください。
- (2) 日本音楽教育学会選挙管理委員会規定第 3 条に定める電子投票システム委託業者から「第 26 期会長・理事選挙電子投票用はがき」（以下《選挙はがき》と略称）が送付されます。そこに記載された個別の**パスワード**、**投票期間**を確認し、学会ウェブサイトからアクセスします。
- (3) トップページにある**2023 選挙はこちら**をクリック／タップし、遷移した「投票ログイン画面」でパスワードを入力し、投票画面にログインします。そこに記載されている選挙公報をよく読み、指示に従い、会長と理事の選挙を行います。
- (4) 電子投票ができない方のために、従来どおりの紙による投票にも対応します。《選挙はがき》が届いたら**圧着部分を開かずに**、封書で、「紙の投票を行いたいので投票用紙を郵送してください」旨の手紙とともに、本学会事務局宛に速やかに返送してください。折り返し、①投票用紙、②選挙公報、③被選挙人名簿をお送りします。**圧着部分を開いた場合はこの対応はできません。**
なお、投票終了日の消印以降の投票は無効となりますのでご注意ください。

選挙の日程

選挙の日程（予定）は本ニュースレター同梱のチラシに掲載しています。紙による投票の場合、届いた《選挙はがき》の返送と選挙書類（郵送）受取が必要です。投票期間は従来よりも長めに設定されていますが、投票終了日（消印有効）に十分ご注意ください、速やかにご対応ください。

5. 理事の被選挙権者辞退の申し出に關してのお願い

事務局長 齊藤 忠彦

日本音楽教育学会細則「第 5 章 役員の選挙に関する規則」第 17 条に關わるお知らせです。

第 17 条 理事の被選挙権は、改選年度の 2 年前の年度会費納入者が有する。ただし、通算して理事を 8 期つとめた会員は、被選挙権者となることができない。また、理事選挙が行われる年度内に満 70 歳以上になる会員は、被選挙権者であることを辞退することができる。

2023 年度は選挙の年にあたりますので、それに先立って選挙人名簿を確定する必要があります。「通算して理事を 8 期つとめた会員」は事務局で把握できますが、「理事選挙が行われる年度内に満 70 歳以上になる会員」は、該当する会員ご自身が事務局に申し出いただくことになります。申し出の方法につきましては、同封の「理事の被選挙権者辞退の申し出に關してのお願い」をご覧ください。申し出期限を**2023 年 4 月 20 日（木）**といたします。ご協力の程よろしくお願ひいたします。

2 音楽教育の窓

〈連載〉音楽・教育・学校 (30)

1. 多文化の伝統音楽への向き合い方を考える

加藤 富美子（東京音楽大学客員教授）

これまで 40 年もの間、音楽授業での世界各地の多文化の伝統音楽への向き合い方を探ってきました。私自身、若い頃に小泉文夫先生を通して世界各地の多文化の伝統音楽に出会うことによって、「音楽」の世界が大きく広がったことをとても嬉しく思ってきたからです。

その探索の道のりで感じてきたことを振り返り、今、考えていることをお伝えしたいと思います。出発点は次の3つの視点でした。

- ・世界のどこでも、自分たちの音楽を大切に、それを楽しんでいることを知ろう。〔人と音楽〕
- ・地域、国あるいは民族によって、音楽の特徴がいろいろに異なっていることを知ろう。〔音楽〕
- ・世界のどこでも、音楽は暮らしや文化とつながりを持っていることを知ろう。〔音楽と文化〕

そして、モンゴルのオルティンドーや馬頭琴、中国の古箏、フィリピンのトガトンなど、多文化の伝統音楽の数々を教科書に教材として入れることから始めました。スタッフとして手伝った「アジア伝統芸能の交流 (ATPA)」で出会った、モンゴルの至宝ノロヴバンザドが歌う超絶技巧を凝らしたオルティンドーの演唱の映像をさまざまな場で紹介し、指導ハンドブックやDVD 付き教材集には「アジアのおこと」として古箏の《漁舟唱晚》などを取り上げました。

さて、ここからです。2011 年に初めて中国の内モンゴル自治区東ウジムチン旗を訪ねた時の衝撃は今でも忘れられません。モンゴルとの国境まで 50 キロという中国で、小学生からお年寄りまで 100 名以上ものオルティンドーの歌い手たちに出会い、暮らしのなかでのオルティンドーを知ることになりました。モンゴルの至宝ノロヴバンザドの映像を代表に、これが「オルティンドー」ですと紹介してきてよかったのだろうかと考えようになりました。

そして、2020 年に東京音楽大学に多文化音楽研究領域が開設されてからのことです。古箏、古琴、二胡、馬頭琴など演奏を専門に学んできた中国からの留学生、モンゴルや中国からの演奏家教員をおおぜい迎えることで、日々、多文化の伝統音楽の多様性をつきつけられることとなりました。馬頭琴は、モンゴルと内モンゴル自治区では楽器も異なること、新しいアンサンブルの形態が次々と生み出されコンサートやテレビ番組を通して人気を博していること、古箏も、近年の楽器開発により音色・音量がまるで異なる演奏が生まれていること、伝統曲よりも現代曲の人気の高いことなどです。

出発点とした〔音楽〕〔音楽と文化〕のいずれについても、国や民族や地域でくくることはできないことが、ここまでの道のりを通してわかってきました。

多文化の伝統音楽のこうした多様性をふまえ、音楽授業で、多文化の伝統音楽の何と向き合っているのか。今、小泉文夫門下の仲間たちと一緒に考えていることは次の通りです。①主体的な音楽活動を通して世界横断的に音楽をとらえていく、②音楽構造の「共通点」と「相違点」をとらえることで世界の音楽の多様性に気付いていく、③そのことにより今までに親しんできた音楽の特徴やよさを音楽構造から見つめ直すことができるのではというものです。授業実践のための題材も開発中です。多様性をもつ多文化の伝統音楽の何を「代表」として教えるのかではなく、多文化の伝統音楽の「音楽の特徴」の違いを軸に、子どもたちが楽しみながら活動をすることで、自分の音楽を見つけていくことをねらいとしています。出発点であった〔人と音楽〕に戻ってきたかのように思っている昨今です。

3 会員の声

1. 第53回東京大会での発表を通して—コロナ禍における小学校での実践事例の研究—

稲生 涼子（国立音楽大学大学院生）

2022年11月に開催された第53回日本音楽教育学会では、「国際バカロレア PYP 認定校の音楽の授業における指導方法—『ブルースを用いた音楽づくり』の事例の検討を通して—」というテーマで口頭発表を行いました。こうして研究をまとめ、本大会で発表することができたのは、日々ご指導下さっている先生方、コロナ禍にもかかわらず長期にわたり事例観察の機会を下さいました先生方のご尽力のおかげです。

私が博士後期課程へ進学したのは約3年前のことです。私は、修士課程修了後、小学校で音楽専科として勤務していましたが、その経験を糧にさらに研究を進めたいという思いから博士課程への進学を決めました。博士課程では、国際バカロレアに関する研究をしていますが、その中でも3歳-12歳までを対象としたPYP（Primary Years Programme）の認定を受けている学校における音楽の授業実践事例に基づいた指導方法の分析を行っています。国際バカロレアとは、スイスのジュネーブに本部を置く国際バカロレア機構が提供する国際的な教育プログラムを指します。日本では、国際教育の推進を目的に、国際バカロレア機構から認定を受けている学校（＝認定校）の大幅な増加が目指されている状況下にあります。PYP認定校も日本国内で増加してきている一方、実践に関する研究の蓄積が乏しい現状にあります。今後PYP認定校における実践をさらに活性化させるには、指導方法の分析を進めていくことが有効であると考え、PYPの中でも特に小学校段階に焦点を当てて研究を進めています。

近年のコロナ禍は、多方面に大きな影響を及ぼしてきていますが、私の研究も例外ではありません。各学校現場は、感染症対策の対応に追われ、さらに予想に反してコロナ禍が長く続き、なかなか授業実践事例の収集が難しく、研究が八方塞がりになっていた時期もありましたが、博士課程に在籍しはじめてから3年目で、ようやくPYP認定校での事例の収集を積み重ねることができました。

PYP認定校の中で許可が得られた小学校を対象に事例収集を行いました。コロナ禍ということもあり、そのうちの1校は、Zoomを使用しての観察となりました。教室の後方から、実践者の授業の様子を映して下さいました。コロナの対応で大変お忙しいにもかかわらず、観察をご快諾下さったPYP認定校の先生は、「少しでも国際バカロレアというものを多くの人に知ってもらいたい」と仰っておりました。また、本大会で発表した事例の実践者である先生は、ご自身も博士号を取得されており、その研究者としてのご経験から研究を継続的に蓄積していくことの重要性を話されておりました。こういった現場の方々からのご支援や激励がなければ、この研究をここまで進めることは到底できませんでした。PYP認定校でご活躍されている先生方のお気持ちに真摯に向き合い、感謝を忘れずに、研究成果を発信していくことが、今後の私の責務であると感じています。

コロナ禍になってZoomを使用した口頭発表が主流となりました。コロナが流行し始めた当初は、Zoomの使用に慣れておらず起動させるだけでも一苦労でしたが、発表経験を積むごとにZoomにも慣れることができました。本発表では途中で動画を再生したため、発表前は画面越しに上手く伝わるか不安でしたが、事前準備・発表前の打ち合わせで試すことができ、安心して本番に臨めました。

一方、音楽教育学の研究をされている皆様との対面での交流がなく、寂しく思うこともあります。今後、状況が改善され、より幅広く交流できる日が一刻も早く訪れることを願って止みません。

2. スペイン・グラナダ留学の思い出

桐原 礼 (信州大学)

「なぜスペイン？」と聞かれることがよくあります。25年も前のことになりますが、留学の思い出をお話したいと思います。もともと西洋芸術音楽の中でスペイン音楽に独特なものを感じており、現地でフィールド・ワークを通してその理由を知りたい、というのが留学の動機でした。運よく派遣留学の機会が与えられ、学部3年次に、スペイン国立グラナダ大学に1年間の単身留学をしました。ちょうど「ペセタ」から「ユーロ」通貨に変わった頃でした。

スペインの歴史的背景として、北アフリカのイスラム勢力に約8世紀間支配された事実があり、特に南部にはイスラム文化の影響が色濃く残っています。なかでも私が滞在していたグラナダには、イスラム王朝最後の砦であったアルハンブラ宮殿があり、当時の栄華を今に伝えます。世界史で習った「レコンキスタ」という用語が、スペイン語の「re (再び)」・「conquistar (征服する)」という意味であることを知ると、長い間領土を占領されていたキリスト教勢力がイスラム王朝を再征服した、という歴史の流れをよりリアルに理解することができました。ちなみに、レコンキスタ終結の1492年にコロンブスが新大陸を発見していますが、グラナダ市内には、イサベル女王がコロンブスに新航路開発を許可したことを示す記念像があります。そこから中南米へのスペイン進出がスタートし、スペイン音楽が中南米に融合していった歴史の流れをイメージすることができます。またグラナダ市内では、北インドから何世紀にも渡って移動し、15世紀初頭にスペインに定住するようになったロマ族が、今でもサクロモンテの丘で洞窟暮らしをしています。長く迫害を受けてきたロマ族が、コミュニティ内で音楽や舞踊を楽しむ中で、フラメンコが育まれてきたことを知らせてくれます。フラメンコには、レコンキスタ完了後にスペインに残ったイスラム教徒の音楽との融合があったことも知られています。こうしたスペイン音楽の特徴的な要素を積極的に取り入れたファリャやアルベニスなどの楽曲には、国民楽派としての祖国文化への思いが感じられます。

このような東洋的とも言える音楽の要素が、遠く離れたヨーロッパ・イベリア半島に存在しているとは、留学前には全く想像していなかったことでした。スペイン音楽の歴史的な背景を学びつつ、モロッコ人やロマ族のメリスマの効いた民謡などにふれていると、私自身が長野県松本市で生まれ育ち、地域の御柱木遣い歌や祭りのお囃子を見聞きしてきた記憶が呼び覚まされました。自分の中にも無意識的に地域のコミュニティ音楽のアイデンティティーがあったことに気づかされ、深い安堵感のような気持ちを抱いたことを覚えています。後に異文化間心理学を学び、異文化に触れて自文化が浮き彫りになるという、異文化接触時のカルチュラル・アウェアネスの体験であったことを認識しました。留学当初の目的であったスペイン音楽の特徴については、このような自文化の再認識と共に整理されていきました。「とても遠くてどこか近い」、それが私にとってのスペイン・グラナダです。

留学体験を原点として、加藤富美子先生や諸先生方の研究から学ばせて頂き、異文化理解・多文化教育の視点で研究を継続しています。スペインの学校音楽科の内容には、生活の中の音楽、多文化音楽、舞踊と音楽の密接な関係などが表れており、とても興味深いものがあります。COVID-19が収束したら、またスペインの歴史探訪と共に、現地の音楽文化を楽しみたいと思っています。

4 会員の新刊・近刊等紹介

★大熊 信彦・酒井 美恵子著『無理なく楽しく取り組める！読譜力&記譜力アップ音楽授業プラン 小学校・中学校』明治図書出版 2022/10/28 B5判・144頁 ISBN: 978-4-18-378729-3 [本体 2,530 (税込み)]

子供の発達の段階などに応じて、音楽の授業の中に無理なく効果的に「楽譜に親しむ過程」を取り入れることで、学習が充実し目標の実現に資することを実践的に紹介した書籍である。

★森本 昭宏・浦野 弘編著、山本 幸正他著『ICTを活用した小学校デジタル教材アイデア 66』ジダイ社 2022/12/28 A5判・168頁 ISBN: 978-4-909124-56-2 [本体 1,400 円＋税]
小学校教員のための ICT を活用した 66 の単元・題材集。小学校における教科等を網羅しており、教員養成課程でも活用できる。授業のポイント、評価の観点、授業の流れ、さらなるチャレンジ等からなる。

★島田 郁子著『近森一重の音楽教育理論の研究—音楽教育における「実践の論」の構築と深化を中心に—』風間書房 2023/1/31 A5判・318頁 ISBN: 978-4-7599-2459-6 [本体 8,000 円＋税]
戦前と戦後の音楽教育史を繋ぐ人物、近森一重。実践者から行政官として戦後音楽教育の礎を築いた足跡を、実践を初めとする諸史料を駆使し実証的に考察。近森の音楽教育理論を現代に生かす。

ニュースレターでは「会員の新刊・近刊等紹介」「会員の声」への皆様のご投稿をお待ちしております。書籍、CD、DVD などのリリースの情報がありましたら、基本的な書籍情報、音源情報に加えて「である調」90 字程度の紹介文をお送りください。

投稿先アドレス☞(半角)onkyoiku@remus.dti.ne.jp

次号のニュースレターはオンラインでお届けします！

2023年6月18日発行ニュースレター第92号はウェブ版のみのお届けです。

学会ウェブサイトの「マイページ」にアクセスしてご覧ください。一般公開用は従来通りトップページからご覧いただけます。

紙媒体での次のお届けは 2023年8月の第93号です。多くの会員のみなさまからのご投稿をお待ちしています。

5 報告

1. 2022年度 日本音楽教育学会 第4回常任理事会

日 時：2023年2月12日（日）10:00～12:20

場 所：オンライン開催（Zoom）

出席者：権藤、有本、齊藤、今川、今田、菅道子、木村、笹野、嶋田（記録）、菅裕、杉江、寺田、石上（企画担当理事）、山本（選挙管理委員長）

会議に先立ち入試業務等の繁忙期中の会議出席への謝意が示されるとともに、会議進行の都合上、審議事項4および5を最初に審議する旨が説明された。

【会務報告】〈2022年11月4日以降〉（齊藤）

2022年

11月4日	2022年度第3回常任理事会・第2回理事会
11月4,5日	日本音楽教育学会第53回大会（国立音楽大学 オンライン開催）
12月18日	ニュースレター第90号発行
12月31日	『音楽教育実践ジャーナル』vol.20発送

2023年

2月12日	2022年度第4回常任理事会（Web会議）
2月13日（予定）	2022年度第4回編集委員会（Web会議）

【MLでの報告・審議事項の確認】〈2022年11月4日以降〉（齊藤）

資料に基づき総会以降、学会賞選考審査委員選出について、および第53回大会常任理事会企画の会計報告が、各々メールで審議、報告された旨の説明がされた。

【審議事項】

1. 新入会員及び退会者について（齊藤）

2022年11月4日の理事会以降の新入会員（正会員9名、学生会員1名）、申出退会者（正会員9名）、申出退会予定者（正会員9名）について承認された。また、2023年5月末に2年未納だった場合、2022年度をもって自然退会となる正会員55名、学生会員1名、特別会員1名があることが報告された。（2023年2月11日現在 正会員1,582名 学生会員6名 名誉会員2名 特別会員3名）

◆正会員 新入会員・再入会員（2022年11月4日理事会以降）

個人情報保護のため削除しました。

正会員新入会 9名

◆学生会員 新入会員（2022年11月4日理事会以降）

個人情報保護のため削除しました。

学生会員新入会 1名

2. 2023年度補正予算案にむけて（寺田）

資料に基づきRILM支援金、電子化に伴う選挙積立金の増額等に関し若干の説明がなされた後に、学会基金中の「資料の保存・アーカイブ化 調査費」について、次年度のプロジェクト研究と関連して増額の必要性が検討された。

3. 第54回大会について

(1) 開催日程および開催方法・会員への周知（今田・齊藤）

2023年10月14日および15日に対面のみで開催されることが承認された。

(2) 正会員大会参加費（木村）

対面開催で行っていた年度と同様に正会員の事前申込みを4,000円とし、当日参加の場合は4,500円に、また学生会員は1,000円とすることが承認された。

非会員の参加費および1日参加の場合等については実行委員会と今後、検討する予定である旨が報告された。

(3) 大会実行委員会との覚書（齊藤）

資料に基づき今田大会実行委員長と確認済みであることが報告され、例年通り進めることが承認された。

(4) 大会準備日程（齊藤）

資料に基づき日程について共同企画申込・研究発表申込と要旨登録の締切を5月31日に設定すること、およびその後の日程案が紹介され、承認された。

(5) 大会研究発表応募要領（齊藤）

資料に基づき応募要領に「大会の発表等に関する内規」をしっかりと読むことを明記した旨が報告された。共同企画については、システム上に追加を行う可能性等について事務局長から東武トップツアーズに問い合わせをすることが提案された。

(6) 大会の発表等に関する内規 (齊藤)

資料に基づき口頭発表の成立要件を明確にしておく必要性が生じた経緯が説明された後に、タイトルを「大会の発表等に関する内規」として提示することが提案され承認された。同時に司会者にも周知しておく必要性も確認された。2023年2月12日から施行となった。

(7) 大会参加登録システム (齊藤)

これまで同様、東武トップツアーズに依頼することが承認された。

(8) 大会日程等 (今川)

資料(暫定案)に基づき日程が説明された。常任理事会企画(プロジェクト研究)と同時間帯に共同企画を数件入れることの是非について検討が要請され、賛否両面での意見が出されたが、申込終了後に検討することとなった。初日の日程に韓国からの招待講演が加わる可能性もある。これまで同様、東武トップツアーズに依頼することが承認された。

(9) 常任理事会企画プロジェクト研究 (杉江)

資料に基づき「生活史の中の音楽と音楽教育Ⅱ」の企画の目的、1987年調査の回収調査用紙のデータ再入力・再分析、および新規調査等の大会までの進め方が説明された。加えて2022年度のプロジェクト研究Ⅰとの連続性を保つこと、メンバー構成、今期以降の研究の継続と発展について等の検討課題が示された。なおメンバーについては研究推進の過程で必要に応じて追加する案が示された。

(10) 大会実行委員会企画 (今田)

「ウェルビーイングと音楽教育」というテーマで実施予定であることが報告された。

4. 第11回(2023年度)ワークショップについて(石上企画担当理事)

資料に基づき開催日時、会場(杉並区立中学校のアリーナを使用)、講師、参加資格、参加費、日程(午前中は講義と演奏、午後は義太夫節体験ワークショップ)、講師謝礼の根拠、申込み期限等の詳細の説明がされた。今後、ニュースレターや学会ウェブサイトを通して会員に周知していくことが確認された。

5. 2023年度選挙について(山本選挙管理委員長)

資料に基づき、2社連携(サニコン・六三印刷)の作業時期の問題および紙媒体投票も担保している関係で、例年より日程がやや押し気味になる可能性があることが説明された。またはがきのイメージの画面共有により仕様に関する説明もされた。今後、事務局と調整をして日程を詰めること、およびニュースレター91号で周知を徹底することも確認された。

6. 学会賞審査について(榎藤)

学会賞審査委員に今田匡彦、小川容子、榎藤敦子(委員長)、阪井恵、佐野靖、志村洋子、藤井浩基の各会員が選出され、3月から始動して次回理事会で審査結果を報告する予定が承認された。

7. 会員名簿作成について(菅 道子)

2023年度が4年ごとの会員名簿作成時期にあたることに鑑み、配布の是非を検討した結果、会員相互の交流に資するために引き続き発行することが承認された。ただし、昨今の社会状況に鑑み、紙媒体の場合、発行に際しては項目を慎重に検討することが再確認され、発行時期をジャーナルと同

時期の12月下旬にする名簿作成スケジュール案と発注業者案が了承された。

8. その他

事務局長より、地区例会開催時の実行委員の弁当代、郵送費や茶菓代等について適切な補助金の出し方についての検討と、地区担当理事への例会運営方法の連絡の必要性が提案され、地区例会時の弁当代支出（1日業務の場合、1,000円程度支出可）に加えて各種委員会についても同様の扱いにすることが承認された。また『音楽教育学』への非会員の発表内容の掲載に関して、過去の議論の経緯が紹介された後に、地区例会報告は文責者の視点からの考察を含めた概要報告であり、「特に、卒論・修論発表会などの報告では、非会員のアブストラクトがそのまま掲載されることのないよう、会員・非会員の別についても確認の上報告」することが地区担当理事に周知されていることを確認した。

【報告事項】

1. 第53回大会（国立音楽大学 オンライン開催）会計報告（津田→齊藤）

資料に基づき適正に会計業務がなされたことが報告された。

日本音楽教育学会第53回大会収支報告

A【収入の部】

決算

費目	金額(円)	備考
大会実行委員会経費(学会本部より)	700,000	本部より
広告料	380,000	@40,000円×4社+@20,000円×11社
臨時会員参加費	404,500	臨時会員@4,500円×89名, 臨時学生会員@1,000円×4名
利息	2	
収入合計	1,484,502	

B【支出の部】

費目	金額(円)	備考
システム登録料	78,574	Zoomビジネスプラン等契約料, Wi-Fi機器使用料等
施設使用料	122,000	11月5日, 6日 国立音楽大学
PCレンタル料	0	施設使用料に含む
実行委員会企画経費	323,741	パネリスト・演奏謝金, 楽器運搬費, 映像制作費, その他(交通費等)
プログラム表紙デザイン料	30,000	デザイナーに依頼
HP作成経費	100,000	謝金等
テクニカルチーム運営費	138,171	ICT専門員謝金, 交通費・宿泊費等
学生アルバイト謝金	219,500	@20,000円×7名+@16,500円×3名+@10,000円×3名
当日実行委員会等経費	174,594	交通費等
感染症対策用品	31,003	抗原検査キット, 除菌用品等
消耗品・文房具	60,588	USBメモリー, ファイル袋等
郵送料, 振込等手数料	19,589	郵送料, 振込手数料等
本部へ返金	186,742	
支出合計	1,484,502	

上記の通りご報告いたします。

2022年12月15日 会計担当 酒井美恵子(印省略)

上記の通り相違ないことを監査いたしました。

2022年12月16日 会計監査

中地 雅之(印省略)

鶴岡 翔太(印省略)

2. 第17回（2022年度）音楽教育ゼミナール 会計報告（今川・杉江）

資料に基づきオンライン開催だったこともあり最小の費用で実施できた旨が報告された。

第17回ゼミナール会計報告

収入の部	費目	金額	備考
	学会より	150,000	ゼミナール・ワークショップ基金より支出
	参加費収入	25,000	会員500円（1日参加）×12名，会員1,000円（2日参加）×19名
	収入計	175,000	

支出の部	費目	金額	備考
	講師謝金（当日）	130,000	70,000円（当日謝金+課題講評），60,000円（当日謝金+資料作成）
	実行委員昼食代	8,000	1,000円×4人×2日
	動画資料作成謝金	10,000	動画撮影と編集 5,000円×2名
	会議室使用料	5,000	レンタルスペース 2,500円×2
	振込手数料	2,450	
	学会へ返金	19,550	ゼミナール・ワークショップ基金に返金
	支出計	175,000	

3. 2022年度会計中間報告（寺田）

資料に基づき現時点まで問題なく会計処理されている旨が報告された。

4. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（今田）

『音楽教育学』第52巻第2号には，研究論文1本，研究報告2本，研究動向1本，書評1本，大会報告が掲載予定である。2月13日開催予定の第4回編集委員会では研究論文4本，研究報告1本，研究動向1本，論考2本の審議が行われる予定である。

(2) 国際交流委員会 「日韓音楽教育実践交流会」について（菅 裕）

翻訳チームが中心となって準備中である旨の報告がされた。現時点で会員34名，非会員5名の参加申込みがあり，さらに韓国側からも30名程度の参加が見込まれている。翻訳に関する謝礼の支払いが可能であることが確認された。

(3) 広報委員会（笹野）

ニュースレター91号の発行に向けて準備中であること，および紙媒体での発行に際し枚数次第で周知事項などの追記も検討している。

(4) 資料の保存・アーカイブ化WG（杉江）

常任理事会の審議結果を受け，今後データの再入力 of 発注に入る旨が報告された。

(5) 教科教育学コンソーシアム（伊藤→齊藤）

資料に基づき「教科教育学コンソーシアム」開催について紹介され，学会ウェブサイトにも掲載予定であることが報告された。

5. 理事の被選挙権者辞退の申し出について（齊藤）

「日本音楽教育学会細則」第17条に基づき，辞退の申し出ができることを会員に周知する旨が報告された。

6. その他

杉江会員より第52回京都大会実行委員会企画の内容がYouTube限定公開（学会ウェブサイトからリンク）されていることが報告された。

〈次回会議の予定〉 2023 年度第1回理事会・常任理事会 4月下旬

マイページ（会員専用ページ）の確認・更新のお願い

学会ウェブサイト上のマイページの登録情報の確認・更新をお願いします。

2023 年度は第 26 期会長・理事選挙の実施、会員名簿の作成を予定しております。マイページの登録情報を各自ご確認ください。

教科教育学コンソーシアム一般研究論文投稿開始のお知らせ

本学会が加盟している教科教育学コンソーシアムでは、『教科教育学コンソーシアムジャーナル』（Journal of Japan Consortium of Subject Pedagogy Associations）、略称

JJCoSPA を年1回発行することになっており、次年度発行予定の第2巻からは、加盟学協会の

会員が論文を投稿することができます。詳しくは本学会サイト「教科教育学コンソーシアムの

『第3回シンポジウム』及び『ジャーナル投稿受付』の案内を掲載しました」（2月16日）をご覧ください。

6 事務局より

事務局長 齊藤 忠彦

1. 第54回大会について

第54回大会（於：弘前大学）は、2023年10月14日（土）、15日（日）の2日間、4年ぶりに対面で開催する予定です。大会参加費は4,000円（正会員・事前申込）です。研究発表（「口頭発表」「ポスター発表」）、「共同企画」の応募方法及び発表方法、参加申込登録等につきましては、学会ウェブサイトに掲載しますのでご確認ください。

2. マイページ（会員専用ページ）の確認・更新のお願い

学会ウェブサイト上のマイページの登録情報の確認・更新をお願いします。2023年度は第26期会長・理事選挙の実施、会員名簿の作成を予定しております。マイページの登録情報を各自ご確認ください。所属地区・所属先・住所等の会員情報に変更があった場合は、速やかに修正登録をお願いします（会員情報の変更は事務局では受け付けておりません）。メールアドレスが未登録の方はマイページに入ることができませんので、事務局まで至急（4月末日までに）メールアドレスをご連絡ください。選挙及び会員名簿の詳細は同封別紙をご覧ください。

3. 年度会費納入のお願い

2023年度会費は7,000円、納入期限は5月31日です。期限内に会費を納めなければ、その後の送付物、研究発表や論文投稿に支障が出る場合があります。2年間会費を滞納すると自然退会となりますのでご注意ください。大会での発表を予定されている方は、2023年度までの会費を5月末日までに必ず納入してください。新規入会し発表することを希望される方も5月末日までに入会申し込みと会費納入を完了してください。会費納入後、約2週間過ぎても、会費振り込みの確認メールが届かない場合は、事務局までEメールでお問い合わせください。

4. 第26期会長・理事選挙に関わるお願い

選挙に関わる名簿作成は、2023年5月31日のマイページの登録情報をもとに作成しますので、各自の責任で必ずご確認ください。なお、「理事の被選挙権者辞退の申し出」の詳細は、4ページをご覧ください。

..... 【編集後記】

コロナ禍により遠隔での会議や授業も日常となりましたが、対面で触れ合うことの大切さを改めて感じています。さて、本号の「音楽教育の窓」には、音楽科における世界各地の民族・民俗音楽の学習に関する研究を牽引していらっしゃる加藤富美子氏にご寄稿いただきました。これまでのご研究に裏付けられたご提言は、複雑化する社会の中で多様な音楽と出会う私たちに重要な示唆を与えてくださっています。引き続き皆様からの最新の情報やご意見を広報委員一同お待ちしております。（上野智子）

【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206 Tel. & Fax. : 042-381-3562

E-mail : (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私書箱：〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

郵便振替口座：00110-6-79672

事務局員：宇田川・亀山・徳山・若尾

※当面の開局日は、木曜日 10:00～15:00 です。その他の曜日のお問い合わせはEメールにてお願いいたします。